

# 経営部門

鹿児島県鹿児島郡三島村  
みしま農産有限会社【肉用牛繁殖経営】  
(代表：日高 郷士)

## 冒険心と情熱が支えた牛の放牧



日高さんご夫妻

平成 17 年度第 10 回全国草地畜産コンクール最優秀賞

みしま農産有限会社は、鹿児島県鹿児島市の南方約 100km の海上に浮かぶ硫黄島（鹿児島郡三島村）にある。同島は保肥力および保水力のない火山灰土であり、年間を通して風が強く、塩害も頻繁に発生する地域である。このため適切な施肥を行わなければ牧草の生育が抑制され、また、土壌水分不足による生育障害も発生しやすく、既存の草地改良技術では対応が困難なうえに、離島という条件不利地である。

代表の日高氏は、同村竹島の出身であるが、就職した企業で硫黄島のリゾート開発を担当していた。勤務先がリゾート開発から撤退したのを機に、夢であった牧場経営を実現するため退職し、昭和 53 年に 38 頭の繁殖牛をもとに経営を開始した。

経営の特徴をあげると、第 1 に地域資源を活用した飼料生産体系の確立である。本島の優占種である「リュウキュウチク（琉球竹）」の林だったところを試行錯誤の末、簡易草地改良法によってリュウキュウチクを適度に残しつつバヒアグラスとの混成草地（34.8ha：うち放牧用草地 27.0ha、採草地 7.8ha）を造成した。夏場は放牧草地でほとんどの飼料を確保可能である。冬場に不足する飼料も、採草地のイタリアンライグラスと地域資源であるチガヤ、ローズグラス等で補うことで、飼料自給率 80%、粗飼料自給率 97.5%（TDN ベース）を達成している。たい肥も全量を草地還元（年間約 100t）している。

第 2 に、労力削減の追求である。平成 4 年のロールベアラ導入による貯蔵用飼料生産の作業効率の向上、平成 16 年のブッシュチョッパー導入による草地管理労力の低減などで成雌牛 1 頭当たり投下労働時間は 36 時間となっている。

第 3 に放牧管理技術である。飼養牛はほとんどの期間、昼夜放牧を行っているが、バイチコールを定期的に塗布（15 回程度/年）することで、放牧牛にありがちな子牛の下痢やダニによる被害はほとんど発症していない。

これらの取り組みの成果として、子牛 1 頭当たりの生産原価を 21.1 万円と低く抑えている。また、自然交配から人工授精に移行して優良子畜の改良生産に努めた結果、子牛の販売価格は 45.5 万円（平成 17 年実績）と本土並みの価格を維持している。

以上のように、その地域に合った農業を心がけ、地域資源を有効活用した質の高い経営である。

離島という不利な条件で環境保全機能の高い資源循環型子牛生産を確立しており、今後、離島に限らず、永年寒地型牧草の維持管理が困難な本州以西の低標高地域における野草有効活用型肉牛繁殖経営のモデルとして、大いに参考となる事例である。

## 活動のすがた

活火山のある硫黄島  
写真右側の山は今でも活動を続けており噴煙を上げている。



島の優占種「リュウキュウチク」  
自然条件下のリュウキュウチクの林。島内のいたるところに自生している。



放牧地のリュウキュウチク  
自然条件下のものとは比べ、草高がかなり低くなっている。



混生草地  
島に自生するリュウキュウチク、チガヤを残しつつ、バヒアグラスを播種した混生草地を造成。



ブッシュチョッパー  
平成16年に導入。放牧地の掃除刈りに利用している。



牛の出荷  
出荷時はケージに入れて、鹿児島本土の市場までフェリーで運搬する。

